

# 社会科（地理的分野）学習構想案

期 日 令和4年11月18日（金）第2校時  
 場 所 熊本大学教育学部附属中学校 社会科教室  
 学 級 1年1組 32名  
 指導者 下益城城南中学校 教諭 矢部彰人

## 1 単元構想

単元名	第2章 3節「アフリカ州」（帝国書院P.82～93）		
単元の目標	(1)アフリカ州の自然環境や人々の生活、産業の特色に着目し、アフリカ州が抱える課題の原因や影響について理解することができる。 (2)アフリカ州の地域的特色やアフリカ州が抱える課題を多面的・多角的に考察し、優先して解決すべき課題やその課題の解決について、考えることができる。 (3)アフリカ州が抱える課題について知り、これからのアフリカ州の展望について考えることを通して、アフリカ州が抱える課題に目を向け、課題解決の意識を高める態度を養う。		
<b>単元終了時に期待する生徒の姿</b>			
アフリカ州が抱える課題と経済成長の可能性を学び、アフリカ州が抱える課題のうち、優先して解決すべき課題は何かを考え、アフリカ州の今後の展望について考える活動を通して、当事者意識をもって課題解決の意識を高めつつ、アフリカ州に対するポジティブなイメージをもった生徒。			
指導計画と評価計画（9時間取扱い 本時8／9）			
過程	時間	主に働かせたい見方・考え方と発問	身につけさせたい力 (知・技 / 思・判・表 / 態)
課題把握	1	<b>【位置や分布】 【地域】</b> ・なぜアフリカ州にはチョコレートを食べることができない子どもたちがいるのだろうか。 ・なぜアフリカ州で日本人が働いているのか。	・「チョコレートを知らない子どもたち」の動画を視聴してアフリカ州が持つ課題を捉え、ナイジェリアで働く日本人の仕事内容を通して、アフリカ州の経済発展の可能性を知ること、アフリカ州への関心を高めることができる。(態)
	<b>単元を貫く課題：アフリカ州の課題と成長の可能性について知り、これからのアフリカ州について考えよう</b>		
課題追究	1	<b>【位置や分布】</b> <b>【人間と自然環境との相互依存関係】</b> ・アフリカ州の自然環境の、魅力と課題は何か。 ・なぜ砂漠化は起きているのか。	・アフリカ州の自然環境の特色や砂漠化が進行する原因や影響について理解できる。(知・技)
	1	<b>【地域】</b> ・なぜアフリカ州では、民族紛争が多く起きているのだろうか。	・アフリカ州の文化の特色や民族紛争が多い理由について、資料をもとに説明できる。(思・判・表)
	1	<b>【空間的相互依存作用】</b> ・経済成長の期待をされているアフリカ州では、なぜ貧困問題がなくなるのか。 ・モノカルチャー経済がアフリカ州の人々にどのような影響を与えているのだろうか。	・アフリカ州の貧困問題がなくなる背景について、モノカルチャー経済の視点から説明することができる。(思・判・表)
	1	<b>【空間的相互依存作用】</b> ・なぜアフリカ州の子どもたちの多くが、教育を十分に受けられないのだろうか。	・アフリカ州が抱える教育問題の原因やその影響について理解できる。(知・技)
	1	<b>【空間的相互依存作用】 【地域】</b> ・なぜ様々な立場から、アフリカ州の課題解決に向けた取り組みを行なっているのだろうか。	・アフリカ州が抱える課題に対する解決の取り組みを調べ、課題解決に向けて関心を高めることができる。(態)
課題解決	1	<b>【位置や分布】 【場所】 【自然環境】</b> <b>【空間的相互依存作用】 【地域】</b> ・アフリカ州が抱える課題(「砂漠化」「民族紛争」「貧困問題」「教育問題」)の中で、優先して解決すべき課題は何だろうか。	・アフリカ州が抱える課題の中で、優先して解決すべき課題について選択し、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表)
	1 本時	・これからのアフリカ州のために、4つの課題をどのような優先順位で解決すればよいか。	・課題解決の優先順位について考える活動を通して、これからのアフリカ州について自分なりに考えることができる。(思・判・表)
	1	・自分が考えたアフリカ州になるために、自分自身が関われることは何だろうか。	・前時で考えたこれからのアフリカ州になるために、自分が関われることについて考え、課題解決に対する関心を高めることができる。(態)

## 2 本実践のねらいと生徒の実態

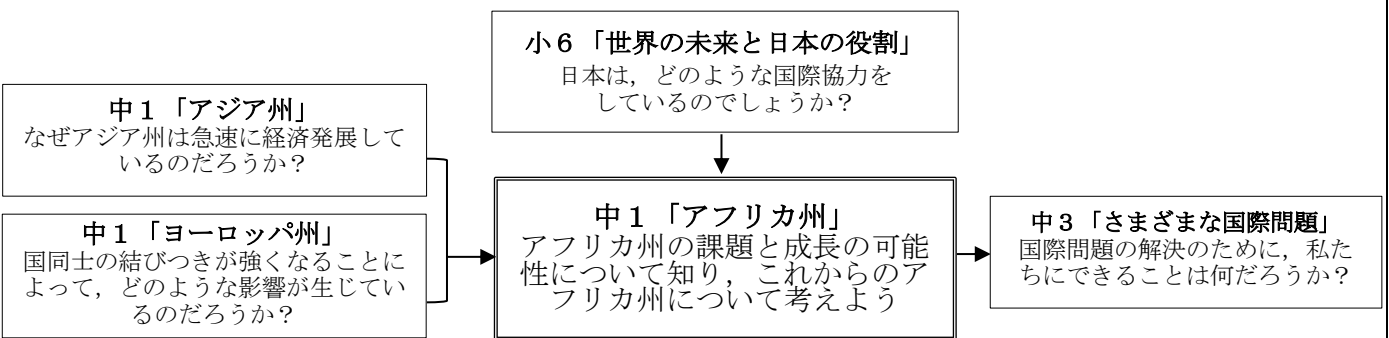
### 本実践（単元）のねらい

本単元は、学習指導要領の地理的分野における「B世界の様々な地域」の「(2)世界の諸地域」にあたる。アフリカ州は植民地支配の歴史を抱え、そのことに起因する経済発展の遅れや、砂漠化問題、紛争問題、貧困問題、教育問題など、様々な課題を抱えた地域と言える。しかし近年では、広大な面積があること、人口増加に伴う労働人口の増大ならびに消費力の向上が期待されること、豊富な鉱産資源を保有することなど経済発展の要素を多く持っており、その可能性に期待が集まる。また2022年8月に開催されたTICAD8で岸田総理大臣は「日本はアフリカと、ともに成長するパートナーでありたい」と述べた。「ともに成長するパートナー」として、アフリカ州が抱える課題について考察し、解決しようとする態度が求められているのではないかと考えた。

本実践では、「アフリカ州の課題と成長の可能性について知り、これからのアフリカ州について考えよう」という単元を貫く課題を通して、アフリカ州が抱える課題に目を向け、課題解決の意識を高める態度を養うことを狙いとする。生徒が対話的な学びを通して、課題に気づくこと大切さを体感し、これからの社会科を学ぶ意欲も高めていく。

そこで、アフリカ州に進出する企業のナイジェリア法人代表であり、ナイジェリア在住の一宮氏をゲストティーチャーとして取り上げる。一宮氏は、現地のスタートアップ企業と連携して、現地の人と共に新しい価値を生み出している。アフリカ州で働く人から、アフリカの実情を知り、課題解決に向けて働きかける姿勢を学ぶことで、「課題の多いアフリカ州」という見方から、「伸びしろのある、多くの可能性を秘めたアフリカ州」というイメージ転換を図りたい。

### 本単元における系統



### 生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態）

#### ■本単元を学習する以前の内容理解 (単位：29人)

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
アフリカ州がどこにあるか説明することができる	6	6	8	9
アフリカ州にある国名を知っている。	2	0	17	10

#### ■本単元の学習に関する意識の状況 (単位：29人)

調査内容	
アフリカ州と言えば何を思い浮かべるか？ (複数回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物が多い：11人</li> <li>砂漠：9人</li> <li>ピラミッド：5人</li> <li>サバンナ：4人</li> <li>発展途上国：3人</li> <li>暑い：2人</li> <li>紛争：2人</li> <li>黒人：2人</li> <li>石油：1人</li> <li>ナイル川：1人</li> <li>民族：1人</li> <li>原始的：1人</li> <li>貧困：1人</li> <li>猿人：1人</li> <li>乾燥帯：1人</li> <li>自然：1人</li> <li>工業：1人</li> <li>カカオ：1人</li> <li>人口が多く面積が広い：1人</li> </ul>
アフリカ州のイメージは？(二択)	<ul style="list-style-type: none"> <li>発展している 9人</li> <li>発展が遅れている 20人</li> </ul>
アフリカ州が抱える課題について、どのようなものがあるか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>わからない：24人</li> <li>貧困：3人</li> <li>医療機関が少ない：1人</li> <li>教育格差：1人</li> <li>経済発展の遅れ：1人 (複数回答)</li> </ul>

#### ■考察

生徒のアフリカ州に対するイメージは、「動物が多い」や「砂漠」など自然環境に対する視点が多く見られ、歴史的な側面や経済的な側面を捉えている生徒は少数である。また、発展が遅れているイメージをもつ生徒が7割ほどいる。アフリカ州が抱える課題については、「貧困」「医療機関が少ない」「教育格差」という課題を捉えている生徒もいる一方、「わからない」を回答する生徒が24人いる。

そこでまず、アフリカ州がどのような地域なのか現状把握させて、課題追究に臨む必要がある。そして、身近な事例や映像資料など活用して課題意識を高める手立てが必要と考える。生徒同士の対話的な交流を促し、授業の中で課題に対する認識を共有し、高めていきたい。

### 3 指導に当たっての留意点

- 単元の毎時間で効果的な資料を提示して、アフリカ州の課題と発展の可能性を視覚的に捉えさせたい。
- 授業アプリケーションのロイロノートを活用して、単元全体を捉えやすいように授業テキストを整理させる。
- アフリカに住む人々が貧しいというような安易な考えにならないよう人権教育の視点からも十分配慮する。

### 4 本時の学習

- (1) 目標 課題解決の優先順位について考える活動を通して、これからのアフリカ州について自分なりに考えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項
導入	3分	1 同じ課題についてまとめたグループで、前時の確認を行う。	○前回の学習でまとめた課題を確認させる。 ○どれも重要な課題であるが、一つ一つ解決していく必要性を話し、本時の学習課題を提示する。
		<b>【学習課題】</b> これからのアフリカ州のために、4つの課題をどのような優先順位で解決していくべきか？	
展開	22分  15分	2 「砂漠化」「民族紛争」「貧困問題」「教育問題」を考察した4人班を作り、それぞれの考えを発表したのち、班で解決すべき課題に優先順位をつけ、これからのアフリカ州について考えをまとめる。  3 全体で考えを述べて、協議する。  ◇「砂漠化」→「民族紛争」→「貧困問題」→「教育問題」の順に解決すべきです。なぜなら「砂漠化」が食料問題や土地の奪い合いを生み出しているからです。さらに、砂漠化問題の解消は地球温暖化にとっても重要なことなので最優先に解決すべきです。そして「民族紛争」がなくならなければ、住み場所も追われ、働くこともできない人が減らないでしょう。砂漠化や紛争などの周りの状況が解決されてから「貧困問題」に取り組まなければいけないと思います。貧困状態が少しでも解消したところで、将来のことを考え、「教育問題」にしっかりと力を入れていくべきです。 このように課題を解決していけば「地球環境を救い、協力して発展し合うアフリカ」になれると思います。	○班の中で、優先順位をつけさせ、そのように序列した理由について根拠を明らかにして考えさせる。  ○班のそれぞれが最優先に解決すべき課題は違うことから、対話を通して、その班の最適解を導かせる。  ○班活動で随時必要な資料等を提示し、班での思考を促すようにする。  ○全体共有して、発表に対する生徒の反応(良い点や疑問点など)を聞き出し、生徒間の対話を生み出す。  ○解決の順序が同じでも、理由が異なっていた場合、班に発言させる。  ○アフリカ州やアフリカ州に住む人々の未来像を共有する。  ○生徒の思考を揺さぶる資料を提示し、生徒の思考を深める。
終末	5分  5分	4 協議を通して、個人で考えをまとめる提出する。  5 GTの話聞き、感想を発表する。	○発表者の提出物をモニターに写して全体で共有する。  ○生徒の発言から「自分たちが関われること」を引き出し、次の学習へつなげる。

(3) 本時の評価

評価の観点	評価基準
思考・判断・表現	A：課題解決の優先順位を、他者の意見と比較しながら考察することを通して、これからのアフリカ州について、アフリカの人に寄り添った考えを持つことができる。
	B：課題解決の優先順位を考察することを通して、これからのアフリカ州について自分の考えを持つことができる。